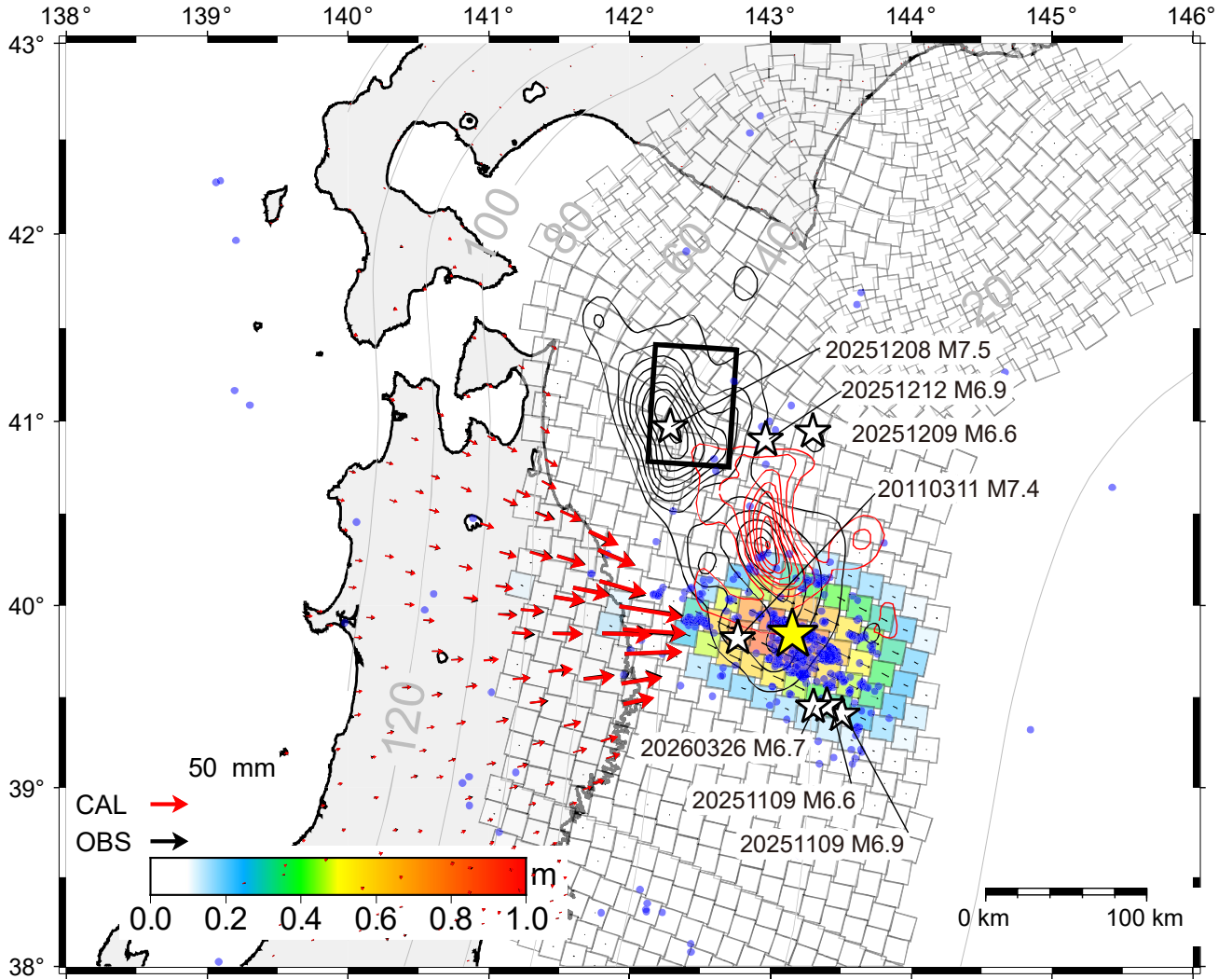


三陸沖の地震（4月20日 M7.7）のすべり分布（暫定）

2026年4月20日に発生した三陸沖の地震について、電子基準点GNSS解析で得られた地殻変動をもとに、プレート境界面を小断層に分割したうえで地震時すべりを決定した。

- ・ 基準期間：2026年4月13日 09:00–2026年4月20日 08:59 JST（速報（R5.1）解）
- ・ 比較期間：2026年4月21日 09:00–2026年4月24日 08:59 JST（速報（R5.1）解）
- ・ 固定点：猿払（950101）



黄星印は震央、青点は気象庁一元化震源（本震発生以降～2026年4月23日23時59分（JST））、白星印は過去の地震の震央。

- ・ プレート面（Nakajima and Hasegawa 2006, Kita et al. 2010）を15 km x 15 kmの小断層に分割してすべり分布を推定。
- ・ 黒等値線は1968年十勝沖地震、赤等値線は平成6年（1994年）三陸はるか沖地震のアスペリティ（永井・他, 2001）。
- ・ 黒太線は、2025年12月8日の青森県沖の地震（M7.5）の震源断層モデル。
- ・ すべり方向をプレートの沈み込み方向と平行に拘束。
- ・ 最大すべり量は約0.9m。
- ・ M_w は7.54である。 M_w の計算においては、剛性率を40 GPaと仮定した